

電子債権担保に融資

トランザックスと 城南信金提携 受注時調達可能

城南信用金庫（東京都品川区）と、電子記録債権に

関するサービスを展開するTranzax（トランザックス、同港区）は1日、業務提携契約を締結した。

同信金は7月2日から、同社の電子記録債権を活用し、受注時点での資金調達を可能にする「POファイナンス」の取り扱いを開始する。同信金によると、POファイナンスの取り扱い

は世界の金融機関で初めてという。

同信金では中小企業に融資をする際、原則として商品の納入やサービスの提供の際に債権が発生し、それ



業務提携契約を結んだ渡辺理事長（右）と小倉社長
＝東京都品川区

を担保に融資する「動産担保融資」を取り扱っていた。POファイナンスでは受注情報を電子記録債権化し担保とすることで、受注段階からの融資が可能となり、生産に必要な人件費や原材料費を調達することができるようになるといふ。

1日開かれた締結式では、渡辺泰圭理事長が「新

たな融資手法の確立で、中小企業に円滑な資金供給が実現できる」とした上で、「中小企業の育成と支援への取り組みを締結によって徹底し、中小企業にとって有意義で実効性のあるものになることを心から願う」とあいさつした。

9年前に起業したというトランザックスの小倉隆志社長は「一番やりたかった企業ファイナンスの第一号を城南信金に導入していただき、会社をつくって良かったと思っている」と述べていた。

（柏尾 安希子）